

表紙解説

イタリアのローマがどのようにして生まれたかは、史実と伝説が入り乱れ、どこまでが史実で、どこまでが伝説なのか区別がつかない。

考古学者の説によれば、ローマの最初の歴史的証拠となるものは、パラテーイの丘で発掘された、紀元前八世



コロッセオ

現存する古代ローマの遺跡の中で、最も巨大なもの一つである。コロッセオの名前は「巨大なもの。巨人」を意味する名詞であるという。また、この大円形劇場の横に立っているネロ帝の巨像から生じたものとも言われている。

この大円形劇場は、長形一八八メートル、短形一五六メートルの橢円形で、周囲五二七メートル、高さは五七メートルある。七五年（一九〇〇）、ウエスパンニアヌス帝により着工され、八〇年後、王子ティトゥス帝によって完成された。

観客席は七階に分かれ、約五万人を収容したと言われている。当時の主な催し物は、闘技による真剣勝負と闘好と猛獸との決闘であった。また、グラウンドに水を張つて模擬海戦なども行われた。

紀以前の小集落の跡であるという。また、伝説に従えばローマの誕生は、神と人間とが共存した神話時代に始まるという。いずれにしても、日本人である自分の見た限りでは、只驚異というより外に言葉は見当らない。

開会式は、一〇〇日間にわたって行われ、多数の闘好

と五〇〇〇頭の猛獸が使用されたと言われている。グラ
ンドの下奈落には、リフトなど色々な演出装置のほか猛

獸の監置場や、闘好たちが出席を待つ部屋などあった。

炎天下では、劇場の頂上の四方から大天幕を張ること

も出来たと言う。動物の異臭や血のにおいを消すために

香水をふりかける装置もあつたそうである。

その後、地震や、中世に貴族の館や教会を造るのに、

周囲を飾った大理石像・大理石板・円柱が奪い去られ、

次第に今日の姿になつたと言われている。

写真並びに説明

軸 丸 勇

写真

上 トレビの泉
下 コロショウム内部

新刊案内

大友宗麟

二階崩れの巻

御手洗 一而作

出版社 新人物往来社

定価 二〇〇〇円

皆さんご存じの「佐伯の三青年」の作者御手洗さんが、今度大友宗麟の生涯を書かれ、その「二階崩れの巻」が発刊されました。

大友宗麟の放縱な少年時代から、廢嫡の危機、フランシスコ・ザビエルとの出遭いまで、波乱に富んだ宗麟の生涯を描く大河小説です。

秋の夜長、読書の秋に一見をお奨めします。